

令和2年度 第2回芽室町環境審議会議事録

日 時 令和2年12月24日(木) 15時30分から16時40分

場 所 芽室町中央公民館 2階講堂

○会議次第

1 開 会

藤野 元成 住民生活課長

2 委嘱状交付

手島 旭 芽室町長から交付

※その後、手島町長から委嘱委員に対するあいさつ

3 会長および副会長互選について

会 長 貫田 正博 委員

副会長 高井 宏司 委員

4 会長あいさつ

5 説明事項

・環境審議会の役割等について

6 審議事項

・芽室町ごみ処理基本計画(原案)について

7 その他

8 閉 会

藤野 元成 住民生活課長

○出席委員(敬称略)

貫田 正博 高井 宏司 森住麻友美 砂金 新一 佐藤三千子

臼木 一英 高橋 好明 井上 貴明 塚本 元一 後藤 勝幸

○欠席委員(敬称略)

阿部 浩 福岡 智子 村瀬 雅道 大橋 一博

○傍聴人

0人

○町側出席者

手島 旭 芽室町長（委嘱状交付時のみ）

藤野 元成 住民生活課長

齋藤 和也 住民生活課生活環境係長

植田 尚恵 住民生活課生活環境係主任

○会議要旨

説明事項

環境審議会の役割等について

齋藤係長から資料に基づき報告 質疑等なし

審議事項

芽室町ごみ処理基本計画（原案）について

齋藤係長から資料に基づき報告

主に次の2点について委員への意見を聴取

- ・ごみ処理の取組を進める方向性
（リサイクルを中心としたごみ排出・削減の取組の方向性について）
- ・重点取組事項に対する意見
（実際に取り組むことによる効果、必要性等）

【委員からの意見】

【委員】

町内にある無認可保育園では、生ごみを乾燥させてから排出している。水分量が減ってごみ量が削減されることから、このような取組を行っている。また、入園している保護者にも推奨している。

古新聞を使って水分を含ませて乾燥させているとのことで、その使った古新聞も再度乾燥させて使用するなど、環境にやさしい取組を積極的に行っており、これらが多くの方に浸透すると家庭ごみも削減されると思う。

【委員】

洗剤を使わずに洗い物をしているとも聞いている。私自身も買い過ぎないように取り組んでいる。

【委員】

事業者は排出するごみのほとんどが産業廃棄物であり、事業系一般廃棄物はほとんどない。

【委員】

プラスチック等は有価物として排出するなど、企業としては産廃を削減する努力もしている状況。事務局の説明の中で、小型電子機器リサイクルの話があり、他自治体と比べて芽室町は回収量が少ないとあったが、その原因や理由は何か。

→芽室町では現在、回収ボックスを庁舎1か所に設置しているが、他自治体では支所やコミュニティセンターなど複数の箇所に設置している。また、芽室町でもこれまでに事業の周知を行っているが認知度は低い。これらのことが回収量につながっていると考えている。

【委員】

取組としては良いことである考えるので、今後においては町民が排出しやすい方法を考えてもらいたい。

【委員】

ごみ排出量の1日1人あたり目標値が345gとしているが、実際にどれくらいの量なのか。

→ごみとしての量といっても、物の重さによって見た目は異なるため、具体的に説明することは難しい。普段目にするもので考えると、1日に接種する野菜の量が約350g、缶ジュース350mlでもほぼ同じ重さとなる。実際に350gと考えるとあまり多くはないとイメージするかもしれないが、1か月、1年と積み重なると相当な量になることが想像できると思う。

【委員】

話を聞いていて、缶製品を購入して持参するより水筒などに飲み物を入れて持ってくるとごみ減量につながると思った。また、お店に対して紙袋は不要と伝えるなど、いろいろと心がけると、できることがあると感じた。来年はコンポストを購入して生ごみを減量するなど取り組もうと考えている。

ある地域で、老人会ボランティアの方がごみ箱を複数用意して分別の方法を教えたのを見たことがある。高齢になるとごみ分別に対する理解が難しくなってくるので、そのような取組は良いと感じた。また、まだ使用できる物を誰かに引き渡すことができる場所・手段があると、捨てることもなくて良いのではと思う。

ごみの処分方法については、先ほどのとおり高齢になるにつれてごみの分別が難しく

なると思われることから、常設ではなくても機会を設けて実践しながらでも教えてくれる場所があると聞きやすく分別方法も理解しやすいと思う。

また、お互いに教えたり教えられたりすることで、環境に対する意識醸成にもつながると思う。

【委員】

常設ではなくてもごみ分別を説明する機会を設けることは良いと思う。年に1回でもそのような機会を作ると良いのでは。

【委員】

ごみの減量化について、ダイコンやニンジンなど、きれいに洗えば皮をむかなくても皮ごと食べられる。また、ダイコンの葉も自宅では料理して食べるなどしている。

一方で、資源ごみのダメごみが地域のごみステーションでも見られ、ごみ分別に対してだらしのない人もいる現状。それぞれが工夫すればごみの量を削減することはできると思う。その意識を持たせるよう考えていく必要がある。

【委員】

情報等を活用した新たな周知・PRの仕組みの導入は効果があると思う。多くの方がスマートフォンなどを使っており、今では情報の多くをスマートフォンなどから入手している。

これだけ細かい分別内容を覚えることはできないので、検索できるツールは効果が期待できると思っている。また、ホームページでも先ほどの小型電子機器として排出できる種類など、情報をうまく活用することは必要と考える。

【委員】

町内会組織が取り組む資源物集団回収事業の充実に関心がある。

現在、町内会加入率が約半数強という状況にあり、町内会未加入者が多い状況となっている。加入の有無にかかわらず、町内会区域に居住する未加入者にも声をかけて、地域全体で回収に協力してもらうなど、できることを考えて取り組むべきと考える。

【意見に対するまとめ】

○計画の基本的方向性および重点取組事項に対する考えについて

基本理念に掲げる循環型社会（リサイクルを中心としたごみ資源化・減量化）に向かう方向性についても理解をいただき、その取組として新たに取り組んでいく内容についても肯定的な意見であった。

今回の審議会の中からは、

- ・ごみの分別方法等を理解してもらうための工夫（説明会・新たなツールなどの創設）
- ・個人のごみ資源化・減量化に向けた意識啓発の工夫

が意見として多く出されており、取組の必要性・重要性を改めて認識した。

その他

特に委員からの意見等はなし。

< 16時40分 閉 会 >